

あきたからの米レター

令和6年産米 作況指数「102」、作柄「やや良」
 全国は平年並みの「101」、東北はやや良の「103」
 県内の予想収量は582kg／10a(前年差+30kg)

1. 全国の作況指数と秋田県の作況指数・作柄

11/19に農林水産省が発表した10/25現在の今年度の作況概況は、全国で平年並みの「101」、東北でやや良の「103」、北陸で平年並みの「99」となっています(図1)。

昨年は日本海側の県を中心にやや不良が多くなっていましたが、今年は全国的に平年並み～やや良の県が多くなっており、岩手・宮城県は良となっています。

秋田県の予想収量は582kg／10aで、5年産より+30kg(平年差+5kg)で、作況指数は「102」の「やや良」の作柄となっています(図2)。

地域別では、県北・県南が「103」、中央が「100」の作柄となっています。

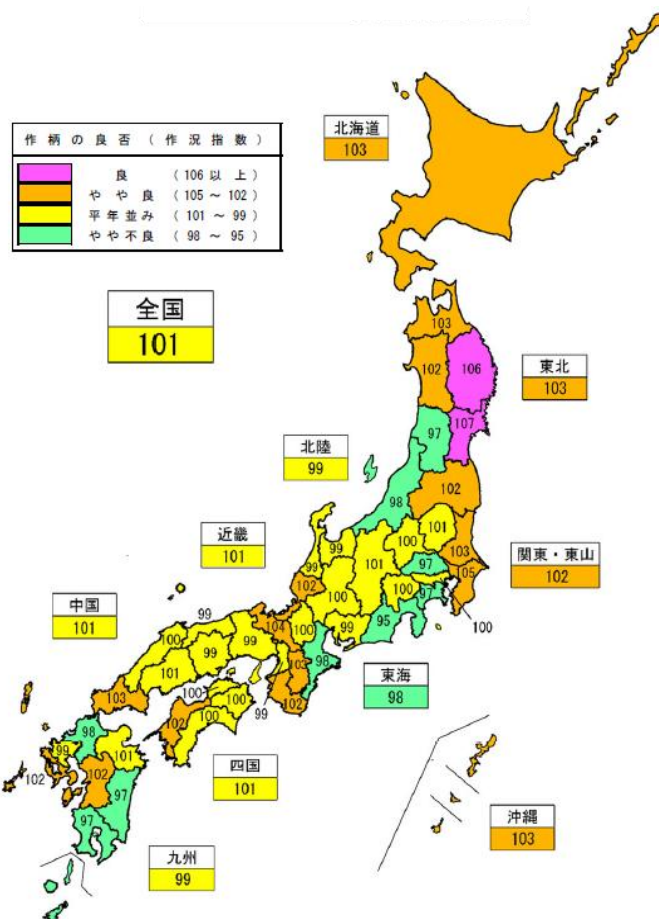
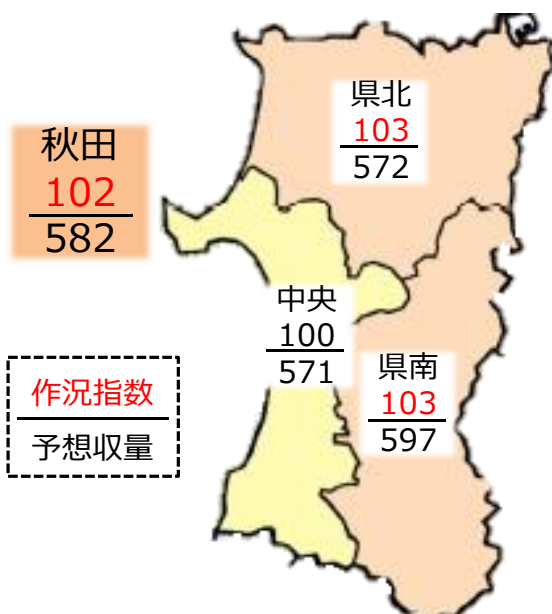


図1 全国の作況指数(10/25現在、農林水産省発表)



※1 作況指数は、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率で、都道府県ごとに過去5カ年間に農家等が実際に使用したふりい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出。

図2 秋田県の地域別作況指数と予想収量(11/20日本農業新聞より)

8/20 に各地域振興局が行った調査では、全県のあきたこまちで穂数が **451 本/㎡ (平年比 101%)**、一穂当たり着粒数が 74.6 粒 (同 101%)、**㎡当たり粒数が 33.4 千粒 (同 102%)** となりました (表 1)。今年も令和 5 年産同様、**移植後の強風による植代枯れ**や 5 月下旬～ 6 月上旬にかけて **最高気温が低い期間**があり、**分げつの発生が緩慢だった**ことから、生育初期の茎数が平年より少なく経過しました。しかし、その後は天候に恵まれたことや、**浅水管理の徹底**により分げつが促進され、最高分げつ期以降の茎数は平年より多くなりました。令和 5 年産は穂数不足であったことに加え、㎡当たり粒数が少なかったことで、収量が平年より少なくなりましたが、今年はいずれも各地域で目標収量 570kg/10a とした時の目標穂数が確保でき、㎡当たり粒数も十分確保できました。

表 1 県内の生育状況 (8/20、各地域振興局調査)

品種	地区	穂数			一穂当たり着粒数			㎡当たり粒数		
		2024	前年比	平年比	2024	前年比	平年比	2024	前年差	平年差
		(本/㎡)	(%)	(%)	(粒)	(%)	(%)	(千粒)	(%)	(%)
あきたこまち	県北	462	109	101	71.8	99	99	32.8	108	99
	中央	459	109	107	76.6	108	102	35.3	118	110
	県南	438	107	98	76.0	101	102	33.2	107	101
	全県	451	108	101	74.6	101	101	33.4	109	102
(参考) ひとめぼれ	中央	484	100	97	66.4	105	97	32.1	106	95
収量構成要素の目標値 (あきたこまち目標収量570kg/10a)	県北	450			70.0			31.5		
	中央	440			69.0			30.4		
	県南	415			73.0			30.3		

また、今年も昨年同様の猛暑となり、刈取適期が平年より**早く**なりました (表 2)。出穂後、刈取適期目安である 950℃ (早生品種)、1,050℃ (中生・晩生品種) に達するまでの日数が、**平年より 5 日ほど早く**なりました。しかし、記録的な猛暑となった昨年と比べると、出穂期翌日から目標積算温度到達日は遅く、到達日までのかかった日数も長くなりました。

表 2 積算気温による刈取適期

地域	出穂期			積算気温の到達日 ^{※1}									
	2024	平年	平年差 (日)	950℃						1,050℃			
				2024	日数 ^{※2}	平年	日数	(参考) 2023	(参考) 日数	2024	日数	平年	日数
鹿角	7/30	8/2	- 3	9/8	40	9/15	44	9/6	36	9/12	44	9/21	50
北秋田	7/28	8/1	- 3	9/3	37	9/11	41	8/31	34	9/7	41	9/16	46
山本	7/30	8/1	- 2	9/5	37	9/11	41	9/1	33	9/10	42	9/15	45
秋田	7/29	7/30	- 1	9/3	36	9/7	39	8/30	32	9/7	40	9/11	43
由利	7/31	8/2	- 2	9/6	37	9/11	40	9/3	34	9/10	41	9/16	45
仙北	7/31	8/2	- 2	9/6	37	9/12	41	9/3	34	9/10	41	9/17	46
平鹿	8/1	8/3	- 2	9/6	36	9/12	40	9/3	33	9/10	40	9/17	45
雄勝	7/30	8/2	- 3	9/5	37	9/12	41	9/4	35	9/10	42	9/17	46

※ 1 アメダス観測地を用いて算出、平年の到達日は平年の出穂期翌日からの平年値を用いて算出

※ 2 出穂期翌日からそれぞれの積算温度到達までかかった日数を表す

2. 令和6年産米 稲作期間中の気象と生育概況

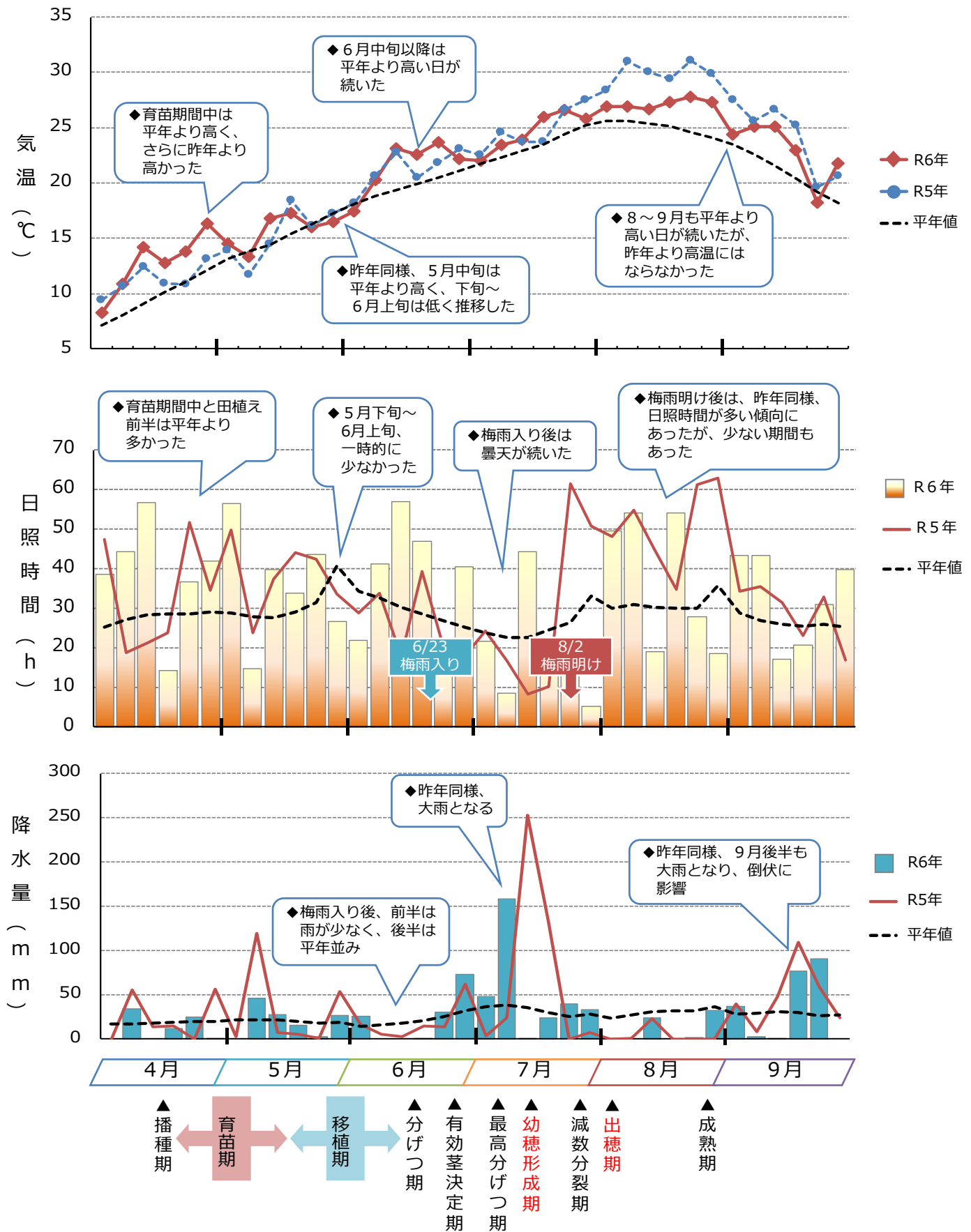


図 3 秋田市の半旬別日平均気温の推移（上図）と半旬別積算日照時間（中図）・降水量（下図）

4月



“サキホコシ” 種まき
(4/12、北川目ファーム)

表 3 苗の生育状況（作況ニュース第2号より）

	2024	平年比（差）
草丈	12.7cm	98%
葉数	3.5葉	+0.1葉
乾物重※	2.85g	129%
充実度	2.25mg/cm	132%

※苗100本

表 4 発根調査結果（作況ニュース第2号より）

調査項目	移植（5月15日）				平年 比・差*
	年次 R6	年次 R5	年次 R4	年次 R3	
平均気温（℃）	15.7	16.7	15.5	-1.1*	+0.1*
平均発根数（本）：A	13.1	16.7	13.7	78	96
平均発根長（cm）：B	5.4	6.4	5.4	84	100
最長根長（cm）	11.1	10.4	9.9	107	112
発根量（cm・本）：A×B	71.3	107	75.0	67	95
発根乾物重（g）：C	0.2	0.6	0.3	42	73
地上部乾物重（g）：D	1.2	2.0	1.3	62	94
根重割合（%）：C/D×100	19.7	28.9	24.6	-9.2*	-4.9*

注1：移植の平年値はH12～R5の平均

注2：地上部乾物量は30個体の重さ



異常還元対策の飽水管理
(6月上旬、北川目ファーム)



有効茎決定期のサキホコシ圃場
(6/25、北川目ファーム)

(1) 育苗期

今年の春先は好天が続き、耕起作業は平年より **3日早い** 4/16に始まり、終期も2日早い 5/10となりました。播種作業は中央・県南地区では平年より2日早く始まったものの、全県で平年並みに終了しました。

苗の生育は概ね順調に進み、葉数・乾物重・充実度が平年を上回りました（表3）。今年の育苗期間中は、**気温が平年より高く、日照時間が多かった**ため、**高温障害**や**徒長**が助長され、育苗期後半には**ムレ苗**が散見されました。一方、5月は周期的に寒い日があったため、**葉先の黄化症状**がみられたところもありました。

(2) 移植期

5月は気温が 15.8℃（平年差+0.6℃）と平年より**高く**、日照時間も 215h/月（平年比 116%）と**多くなり**ました。

5月は晴れる日が多く、田植え盛期は 5/22、終期は 5/31 と平年並みとなりました。しかし今年の発根調査では、発根量が平年比 95%、**発根乾物重が同 73%**、根重割合が同差 -4.9%と平年を下回りました（表4）。田植え後の**強風による葉先の黄化や植代枯れ、一時的な低温**により、活着が平年より遅れたと推測されました。

(3) 分げつ始期

5月下旬～6月上旬にかけ、**最高気温が低い期間**があり、**水温や地温の上昇が緩慢**となり、**分げつの発生が緩慢**でした。梅雨入りは平年より8日遅い 6/23 でした。

分げつ始期（6/10）の生育は、草丈 25.3cm（平年比 100%）、茎数 **124本/㎡（同 84%）**、葉数 6.3 葉（平年差 +0.2 葉）となり、昨年同様、初期分げつが確保できませんでした。

(4) 有効茎決定期

6月中旬以降は気温が高く、日照時間も多かったことから、有効茎決定期（6/25）の生育は、草丈 39.8cm（平年比 108%）、茎数 **443本/㎡（同 109%）**、葉数 9.4 葉（平年差 +0.7 葉）と、茎数は**平年より多く**確保でき、順調な生育となりました。しかし、葉齢が進んでおり、稲の生育ステージが早まっていたことから、目標茎数を確保できた圃場では**速やかに中干しを開始し、有効茎歩合を高める**よう呼びかけました。

7月



サキホコレ現地研修会
(R6.7.26 北川目ファーム)



減数分裂期の追肥



豊作を祈った竿燈まつり

8月



今年は早くから倒伏が目立った

(5) 最高分げつ期～減数分裂期

7月は日平均気温が24.7℃(平年差+1.3℃)と**平年より高**くなったが、日照時間は**114.0h/月(平年比76%)**と**少なく**、曇天が続きました。また、7/24～26にかけての大雨により、県南部を中心に農地の冠水等が発生しました。

最高分げつ期(7/5)の生育は、草丈55.3cm(平年比108%)、茎数**539本/㎡(同103%)**、葉数10.6葉(平年差+0.5葉)となっており、中央・県南地区では理想生育量を上回ったものの、県北地区では平年比98%と茎数が少なめで、地域間差がみられました。

幼穂形成期(7/16)の生育は、草丈**70.1cm(平年比110%)**、茎数511本/㎡(同98%)、葉数**11.9葉(平年差+0.8葉)**、葉緑素計値43.3(**平年比103%**)でした。

減数分裂期(7/25)の生育は、草丈**83.7cm(平年比111%)**、茎数476本/㎡(同97%)、葉数13.0葉(平年差+0.6葉)、葉緑素計値**41.2(平年比106%)**でした。

7月中、**曇天が続いたこと**や、中干し期間中(6月下旬～7月上旬)に雨が**多く**、**中干しが進まなかったこと**により、土壌が還元的な状況が続いたため、窒素吸収が抑制されなかったことが、草丈が伸びた要因と考えられました。

(6) 出穂期(8月上旬)

7月下旬以降、気温が**平年より高く経過**したため、あきたこまちの今年の出穂期は、全県で**平年より2日早い**7/30となりました。

(7) 登熟期(8月中旬以降)

8月は日平均気温が過去最高となった昨年よりは低いものの、**27.2℃(平年差+2.2℃)**と**平年よりかなり高く**、日照時間も**223.0h/月(平年比119%)**と**多くなりました**。8/2の梅雨明け以降、好天が続いたため、雨の日が少なく、降水量は58.5mm/月(平年比32%)と平年よりかなり少なくなりました。

8/20の生育は、穂数が**451本/㎡(平年比101%)**、着粒数が74.6粒/穂(同101%)、籾数が**33.4千粒/㎡(同102%)**と、穂数と一穂当たり着粒数が平年並みとなり、㎡当たりの籾数も平年並みとなりました。

(8) 収穫期

今年も昨年同様、梅雨明け以降は気温が高く、日照時間も平年より多かったため、刈取適期が平年よりも**5日ほど早まりました**(表2参照)。そのため、刈取時期も早まり、全県で始期は**平年より5日早い**9/14となりました(表5)。しかし、9月中旬は雨の日が多く、下旬は天候が回復したが、10月上旬に再び雨の日が続いたことから、終期は平年よりやや早い10/13(平年差-2日)となりました。

表5 稲刈り作業進捗状況(10/20現在、県 水田総合利用課調べ)

地域	刈取始期			刈取盛期			刈取終期		
	2024	平年	平年差 (日)	2024	平年	平年差 (日)	2024	平年	平年差 (日)
鹿角	9/19	9/26	-7	10/6	10/9	-3	10/17	10/23	-6
北秋田	9/14	9/20	-6	9/27	10/1	-4	10/14	10/16	-2
山本	9/16	9/20	-4	9/27	9/30	-3	10/10	10/13	-3
秋田	9/14	9/18	-4	9/25	9/28	-3	10/15	10/14	+1
由利	9/19	9/22	-3	9/30	10/2	-2	10/17	10/16	+1
仙北	9/14	9/20	-6	9/24	9/29	-5	10/9	10/14	-5
平鹿	9/13	9/23	-10	9/27	10/1	-4	10/10	10/12	-2
雄勝	9/14	9/20	-6	9/27	9/30	-3	10/10	10/12	-2
全県	9/14	9/19	-5	9/27	9/30	-3	10/13	10/15	-2

※1 各地域振興局調査による水稻定点調査圃の平均

(9) 病害虫の発生状況

今年は春先の好天で斑点米カメムシ類の発生が早かったことに加え、栽培期間中、高温で経過したことから、6月3半旬までの総誘殺数が平年よりもかなり多くなりました(アカスジカスミカメが**300頭(平年28.7頭)**、アカヒゲホソミドリカスミカメが**52頭(同37.8頭)**)。そのため、秋田県病害虫防除所は、5/16、6/20、8/7に防除対策情報を、7/17に**注意報**を発表し、水田内外の雑草防除徹底を呼びかけました。

表6 稲作期間中の気象概要(秋田地方気象台発表データより)

		気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(h)		
		平均	平年差	平年との比較	降水量	平年比 (%)	平年との比較	積算時間	平年比 (%)	平年との比較
4月	上旬	9.6	+2.0	高い	34	105	平年並	82.9	156	かなり多い
	中旬	13.5	+3.9	かなり高い	11.5	31	少ない	70.9	122	多い
	下旬	15.1	+3.5	かなり高い	26.0	65	平年並	78.6	137	多い
	月	12.7	+3.1	かなり高い	71.5	65	少ない	232.4	138	かなり多い
5月	上旬	13.9	+0.3	平年並	46.5	104	平年並	71.2	124	多い
	中旬	17.0	+2.2	かなり高い	43.0	103	平年並	73.6	132	多い
	下旬	16.3	-0.6	平年並	29.0	76	少ない	70.2	98	平年並
	月	15.8	+0.6	高い	118.5	95	平年並	215.0	116	多い
6月	上旬	18.8	+0.4	平年並	25.5	108	平年並	63.2	92	平年並
	中旬	22.8	+3.2	かなり高い	0.5	1	かなり少ない	103.9	180	かなり多い
	下旬	23.0	+2.3	かなり高い	103.5	178	多い	57.9	109	平年並
	月	21.6	+2.0	かなり高い	129.5	105	平年並	225.0	125	多い
7月	上旬	22.7	+0.6	平年並	206.0	272	かなり多い	30.2	65	少ない
	中旬	25.0	+1.9	高い	24.5	37	平年並	62.9	136	多い
	下旬	26.2	+1.2	高い	73.5	134	多い	20.9	36	かなり少ない
	月	24.7	+1.3	高い	304.0	154	多い	114.0	76	少ない
8月	上旬	26.9	+1.2	高い	0.5	1	少ない	103.5	164	かなり多い
	中旬	27.0	+1.7	高い	24.0	39	少ない	73.0	121	多い
	下旬	27.5	+3.3	かなり高い	34.0	45	少ない	46.5	73	少ない
	月	27.2	+2.2	かなり高い	58.5	32	かなり少ない	223.0	119	多い
9月	上旬	24.8	+1.5	高い	40.0	77	平年並	86.7	149	かなり多い
	中旬	24.0	+3.0	かなり高い	77.0	119	多い	38.0	75	少ない
	下旬	20.0	+1.5	高い	91.0	204	かなり多い	70.8	136	多い
	月	22.9	+1.9	かなり高い	208.0	129	多い	195.5	122	多い

3. 令和6年産米の品質

東北農政局が10/29に発表した令和6年産の検査結果において、**一等米比率は92.0%**で、昨年同時期と比較すると、+29.4ポイント（**前年62.6%**）となりました。主な品種ごとの格付は表7、落等理由は表8のとおりで、今年は**着色粒による落等**が68.7%とっとも多くなっています。

表7 令和6年産米の検査結果（9/30現在、東北農政局）

品種	検査数量 (トン)	等級別比率 (%)			
		1等	2等	3等	規格外
あきたこまち	106,489	92.0	6.7	1.0	0.3
ひとめぼれ	1,630	97.8	1.9	0.3	—
めんこいな	2,885	91.4	7.1	1.3	0.2
ゆめおぼこ	524	91.8	7.8	0.4	—
サキホコレ	1,560	99.0	0.9	—	0.1

表8 令和6年産米格付理由

格付理由	2等以下※1		
	2024	2023※2	R1～R5年の平均
着色粒	68.7%	16.3%	33.5%
形質	22.6%	71.9%	51.2%
整粒不足	3.9%	5.9%	11.4%

※1 本年は東北農政局発表データから、昨年とR1～R5年の平均は稲作指導指針（秋田県農林水産部）のデータから引用・算出

昨年は例年にない高温・多照であったことから、**充実度不足粒**や**白未熟粒**が多く発生し、形質による落等が多くなりました。今年は形質による落等は少なくなっていますが、春先の好天や栽培期間中の高温により、2-（9）に記載したとおり、斑点米カメムシ類の発生が多く、**着色粒による落等**が多くなっています。斑点米カメムシ類による被害を防ぐには、繰り返しになりますが、これまでの基本防除体系による防除を行うことが重要になります（6/25発行、秋田米産地情報第1号参照）。

今年で“あきたこまち”はデビュー40周年！

今年で“あきたこまち”がデビュー40周年を迎えました！

11/1～11/5に鹿角市で行われた種苗交換会では、今年も米穀部でブースを出展し、「あきたこまち40周年」をPRしました！今年はデビュー40周年を記念したのぼりやポスターの他、「ミスあきたこまち」なりきりパネルを用意しました。



来場した子供たちに大人気！顔出しパネル…穴が開いていたら、顔を出したくなるのが人間の性ですよ(笑)

私たち全農秋田県本部は、生産者の皆さんが、引き続きおいしい“あきたこまち”を生産していけるようサポートしていきますので、皆さんも“あきたこまち”をたくさん食べて下さいね！

今年も早くて新米の季節を迎えました。

今年は去年の猛暑による品質低下で令和5年産米の供給量が減り、さらにコロナが5類に引き下がったことによるインバウンド消費の増加など、様々な要因が重なり、「令和の米騒動」と言われるほど、スーパーからお米が姿を消す事態となりました。現在は新米が出回り、スーパーでもたくさんのお米が並ぶようになりましたが、米の価格は高止まり傾向にあります。

今年も昨年ほどではないものの、予報どおりの猛暑となりました。しかし、生産者の皆さんが去年の品質低下を教訓に、適切な水・肥培管理を行ってくれたおかげで、今年は品質の良いお米に仕上がりました。作況も「やや良」の102となりました！毎日おいしくいただいています★

11月に入り、やっと本来の秋田らしい気温になってきたかなと思いますが、先月までは日中の気温が25℃を超えるなど、もはや秋がなくていきなり冬がやってくる感覚です。このまま温暖化が進めば、日本も“四季”がなくなってしまうのでしょうか…

なべ

全国農業協同組合連合会 秋田県本部
〒010-8558 秋田市八橋南 2-10-16
U R L : <https://www.zennoh.or.jp/ak/>

★次回の発行は年明け頃
資料の使用にあたっては、
米穀部の許可を得てください



J A 全農あきた 米穀部
〒011-0901
秋田市寺内字神屋敷 295-53
T E L : 018-845-8500
F A X : 018-880-1572